

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和6年7月1日現在）

法人名	(公財) 神奈川県立芸術文化財団						
設立年月日	平成5年10月25日	代表者名	理事長 磯崎 功典				
所在地	神奈川県横浜市中区山下町3-1		電話番号	045-663-3711			
基本財産等	600,000,000	円	県出資額	600,000,000	円	県出資率	100.0 %

2 法人運営における現状の課題

○当財団は、神奈川県立県民ホール本館（以下「県民ホール」という。）、神奈川県立芸術劇場（以下「芸術劇場」という。）及び県立音楽堂（以下「音楽堂」という。）の3施設の指定管理を一体的に行っているほか、神奈川県の文化事業の受託など、県の文化施策と連動した事業取組を行っている。さらに「かながわ文化芸術振興計画」（以下「計画」という。）において、施策の推進体制の一翼を担う文化芸術団体として明記されたことから、教育施設や福祉施設等との連携による計画の推進が求められている。

○令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に見直されたことに伴い、施設ごとに定めた「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」は廃止としたが、施設の特性により、引き続き必要な感染対策を継続することとし、安全・安心に施設を利用できる環境を維持し、県民の方々が安心して利用、鑑賞できる環境を整えた上で、入場者数、利用率、利用料金収入を通常期並の水準で維持していく必要がある。

○計画の施策展開の基本的な視点の一つである「文化芸術を通じて、共生社会の実現を後押しする」とともに、財団の重点テーマ「あらゆる人々へ開かれた場」の実現を目指すため、これまで各施設で行ってきたソフト・ハード面でのバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を更に推進する必要がある。そのため、令和3年度に財団本部に社会連携ポータル課を立ち上げ、障がい者や外国人を対象にした鑑賞サポートなど、これまで各施設が個別に実施してきた取組を財団全体で進める体制とした。令和5年度以降も、引き続きこの体制を維持し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりを強化していく。

○計画の施策展開の基本的な視点の一つである「文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャーを推進する」ため、各施設における主催事業の実施にとどまらず、小中学校に文化芸術の担い手を派遣するアウトリーチ事業などの学校教育へのアプローチ、オペラ及び演劇などの各施設主催事業の県内巡回公演等を実施することで、地域のにぎわいの創出に貢献していく。

○県民ホールは施設全体の老朽化により、令和7年4月より休館することが決定している。その中においても、県域への巡回事業の展開等により、県の芸術文化の振興を継続して推進する体制を、財団として整備していく必要がある。

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価
	来館者数（入場者数）	千人	601 (633)	757 (738)	827 (844)	(949)	(1,055)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
1	<p>県民ホールの貸館公演は集客が好調であったが、一方で音楽堂の貸館公演の集客がやや伸び悩んだこと、芸術劇場が機器更新・改修等のため1ヵ月程度ホールを閉めたこと、長期貸館の公演準備期間やリハーサル期間が比較的長くなったこと等により、三館合計では目標値にわずかに到達しなかった。</p> <p>目標値には到達しなかったものの、前年度の合計値は上回り、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復しつつあるといえる。</p>				<p>新型コロナウイルス感染症の拡大予防ガイドラインは廃止したが、引き続き必要な感染対策等を実施し、来館者及び利用者の安心安全を確保しながら施設運営を行うとともに、来館者の増加に向け、利用調整や利用促進につながる働きかけ等を行っていく。</p>			
	備考							
	【各施設の令和5年度（令和4年度）来館者数】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民ホール 534,789人 (461,853人) ・ 芸術劇場 180,930人 (215,112人) ・ 音楽堂 111,662人 (80,941人) 							

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価
2	ホール利用率	%	65.0 (49.2)	81.1 (57.4)	83.4 (65.6)	(73.8)	(82.0)	A
			94.3 (51.0)	98.1 (59.5)	95.2 (68.0)	(76.5)	(85.0)	
			63.4 (51.0)	83.1 (59.5)	84.0 (68.0)	(76.5)	(85.0)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
<p>施設利用における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン廃止や、感染対策の緩和等により、一定の利用率を維持することができ、全ての施設で目標値を上回った。</p> <p>感染症による突発的な利用中止等も減少しており、利用率はコロナ禍以前の水準に回復しつつあるといえる。</p>				<p>新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインは廃止したが、引き続き必要な感染対策等を実施し、利用者の安心安全を確保しながら施設運営を行い、利用率の維持に努める。</p>				
備考								
ホール利用率=利用日数/利用可能日数								

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価			
3	主催事業における入場者	人	75,145 (49,940)	62,050 (58,830)	54,875 (67,720)	(76,610)	(88,900)	B			
			自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
			<p>各施設において、様々なジャンルの事業を多角的に展開したが、ホール等の大型公演の事業数及び入場者数の減少等により、目標値を下回る結果となった。</p> <p>目標値には到達しなかったものの、財団のミッションを踏まえ、各施設での創造性の高い良質な公演や展覧会等の開催のみならず、県内各地への巡回公演、小中学校へのアウトリーチ等の学校教育へのアプローチ、専門人材の育成事業等様々な観点から事業を展開し、多くの人々に当財団の事業を届けることができた。</p>				<p>引き続き、様々な事業を展開していく。事業規模や公演内容を精査し、また券売や集客努力を継続して行い、より多くの方に主催事業にお越し頂けるよう取り組んでいく。</p>				
	備考										
【三館以外の県内で実施した巡回公演、アウトリーチ等（三館合計）】											
・巡回公演：4プログラム7地域											
・アウトリーチ：3プログラム5地域											

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価			
4	多言語（やさしい日本語も含む）による情報発信実施事業	事業	13 (10)	15 (10)	15 (15)	(15)	(15)	A			
			自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
			<p>各施設の主催公演の一部において、英文の解説やプロフィール等をホームページや当日配付パンフレットへ掲載したほか、県民ホールの「オープンシアター2023」においては、大ホール公演でポータブル字幕タブレット席（日本語、やさしい日本語、英語・中国語）を設けるなどの取組を積極的に行った結果、目標値を達成した。</p>				<p>外国人や言語に助けを必要とされる方々に対しても文化芸術に親しむ機会を提供することは、共生社会の実現に向けて重要な取組であることから、今後も公演における多言語字幕の提供のほか、様々な可能性を検討していく。</p>				
	備考										
これらの取組のほかにも、財団及び各館のホームページは、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、ベトナム語の自動翻訳に対応している。											

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価
5	ホール・劇場を開く企画及び施設見学会等プログラムの実施	回	41 (22)	36 (22)	36 (36)	(36)	(36)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>県民ホールにおける「オープンシアター2023」、音楽堂における「子どもと大人の音楽堂」「建築見学ツアー」、芸術劇場における「フレンドシッププログラム」等、劇場が「あらゆる人々に開かれた場」であることに視点を置いたプログラムを各館において展開したことにより、目標値を達成した。</p> <p>芸術劇場の「フレンドシッププログラム」では、施設内のオープンスペースのアトリウムにおいて、様々なプログラムを展開したほか、音楽堂の「建築見学ツアー」では、年齢、国籍、障がいに関わらず一緒に参加できることを目指した「ゆっくりめぐる建築ツアー」を実施するなど、多様な取組を行った。</p>			引き続き、劇場が「あらゆる人々に開かれた場」になることを目指し、様々な取組を行っている。				
	備考							

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価
6	学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）の実施	回	7 (2)	13 (3)	7 (6)	(6)	(6)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>音楽堂のアウトリーチ事業のほか、芸術劇場では県立高校の校外学習を受け入れ、舞台技術に関する講義や劇場見学等を実施したことにより、実績値は目標値を上回った。</p> <p>音楽堂のアウトリーチ事業である「先生のためのアウトリーチ」、芸術劇場の高等学校と連携した講座の実施は、どちらも独自の内容が定着してきている。</p>			引き続き、多方面との連携を模索しながら、学校教育へのアプローチを継続していく予定である。				
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価
1	利用料金収入	千円	412,764 (277,800)	452,810 (324,100)	478,931 (370,400)	(416,700)	(463,000)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	<p>施設利用における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン廃止や、感染対策の緩和等により、一定の利用率を維持することができたことから、利用料金収入は三館とも実績値が目標値を上回り、合計でも目標値を上回った。</p>			新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインは廃止したが、引き続き必要な感染対策等を実施し、利用者の安心安全を確保しながら施設運営を行い、利用料金収入の維持に努めていく。				
	備考							
	<p>【各施設の令和5年度利用料金収入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ホール 252,604,226円 ・芸術劇場 191,647,865円 ・音楽堂 34,679,286円 							

No.	項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	5年度自己評価
	小口寄附件数	件	17 (14)	12 (19)	91 (26)	(36)	(50)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
2	<p>インターネットによる小口寄附システムの見直しを行い、用途を明確化して館ごと、事業ごとに幅広く寄附できる仕組みを整備したところ、小口寄附の件数は大幅に増加し、目標値を上回った。</p> <p>少額の寄付を手軽に行えるオンライン小口寄附は多くの方の利用があり、特に「障がいをお持ちの方への鑑賞サポート」や「公演へのこども招待」といった、社会課題に対応した取組に対して、多くの寄付を頂いた。</p>				<p>引き続き、より魅力のある事業内容を打ち出し、引き続き、より魅力のある事業内容を打ち出し、寄附のしやすいシステムや制度について、検討していく。</p>			
	備考							

4 取組実績等についての総括（法人）

○第4期指定管理期間に合わせて策定した、令和3年度から令和7年度までの「第6次経営改善計画」の3年目として、経営改善目標の達成に向けた取組を行った。

○主催事業に関しては、様々なジャンルの事業を多角的に展開した。

○貸館においては、新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインは廃止したが、引き続き必要な感染対策等を実施し、来館者及び利用者の安心安全を確保しながら施設運営を行うことで、一定の利用率、利用料金収入を得ることができた。

○令和3年度に、三館がそれぞれ取り組んできた「①専門人材育成プログラム」、「②学校教育へのアプローチ」、「③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ」、「④地域との連携を強化する機能」について、これまで培った知識や経験を新規立ち上げ部門である「社会連携ポータル」部門に集約し、その機能を強化した。この機能を活用し、今後も引き続き、普段から劇場で公演を鑑賞される方だけでなく、障がい者、外国人、高齢者から子どもまで、あらゆる人々に開かれた場とすることを目指し、計画における施策の推進体制の一翼を担う取組を継続していく。

5 取組実績等についての総括（所管課）

○令和5年度は、5月に「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」の運用を廃止したが、その後も引き続き感染対策に努め、ホール利用率・利用料金収入で目標値を達成したことについては評価できる。

○入場者数については、機器更新や公演準備などの影響で目標値には達しなかったが、前年度から一定程度の増加がみられたため、次年度は目標値を達成できるよう引き続き集客に取り組んでほしい。

○令和3年度に当該財団本部に設置した社会連携ポータル課では、障がい・人種・老若男女問わず誰もが文化芸術に親しめる環境づくりに取り組んでいるが、これは公の文化施設という使命、県の計画や施策の方向性とも合致し、当該財団の特筆すべき点といえる。前年度から引き続き、令和5年度も次世代の人材育成のためのアウトリーチ事業や、鑑賞サポートの充実などを図り、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりに励んだ。今後も、社会と芸術をつなぐ窓口＝ポータルとしての機能を強化し、三館があらゆる人々に開かれた場となるよう努めていただきたい。

○今後も県民が安心安全に利用できるよう、施設の管理運営を適切に行うとともに、県の文化施策の一翼を担う団体として、文化芸術の力で人を引きつけ、地域のにぎわいを創出するマグカルや共生社会の実現に寄与する取組を継続していただきたい。

6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
A	概ね着実に取組が進められている。